

本書の利用に際しての注意事項

北海道土壌断面データベースー代表的土壌の母材、断面形態と土壌分類の解説ー

1) 掲載内容と掲載順について

本資料は、北海道各地に分布する様々な土壌88点について、母材、断面形態の特徴とその土壌分類を解説したものです。断面形態、理化学的分析値、断面写真の3要素で1組となっていますが、一部については1～2要素が欠けています。各土壌の表示順は、農耕地の土壌分類第3次改訂版のコード番号に準じています。

2) 土壌分類について

土壌分類は以下4種の方式による分類を記載しました。①農耕地の土壌分類第3次改訂版(1995、農環研)、②農耕地土壌の分類第2次案改訂版(1983、農技研)、③北海道の農牧地土壌分類第二次案(1974、北海道土壌分類委員会) ④日本の統一的土壌分類体系ー第二次案(2002)ー(2003、ペドロロジー学会)で、説明文中ではそれぞれ、①3次版、②2次案、③北海道、④統一分類と略記しています。

3) 火山灰に係る表現について

火山灰についてはその噴出源を記載していますが、不明なものも多く、?をつけたものもあります。同一噴出源の各火山灰については、例えば樽前系、恵庭系というように総称しています。また、同一土壌分類名の火山灰土壌を多数載せていますが、これは各地の様々な火山灰土壌を紹介する目的で載せたものです。文中の「火山灰アトラス」とは、「新編火山灰アトラス(町田洋、新井房夫 著、東京大学出版会、1992)」を、「火山灰命名委」とは、「北海道の火山灰分布図(北海道火山灰命名委員会、北海道農試、1972)」をそれぞれ指します。なお、文中で、ある種の火山灰に対してローム(質)と表現しており、北海道分類においても分類名として使用していますが、北海道における通称を採用したもので、一般的に地質、火山灰分野で使われる”ローム”とは意味が異なる場合もあります。土壌生成、分類的には、ローム質はアロフェン質あるいは非アロフェン質に対応するものと思われれます。

4) 土壌断面写真の出展について

土壌断面写真は1975～2014年にかけて、当時の各道立農試(2010年以降は道総研の各農試)の研究員(橋本均、志賀弘行、安積大治、竹内晴信、菊地晃二、松原一實、高尾欽弥)により撮影され、一部は平山良治氏(撮影時：国立科学博物館)から提供を受けました。一部の地点の断面記載、分析値は橋本が係わった各種土壌巡検(国際土壌学会、国際土壌分類WS、土壌肥料学会、ペドロロジー学会、ペドロジストトレーニングコース等)の資料から引用しました。分析は引用断面以外は橋本が担当しました。取りまとめ：橋本均(道総研中央農試 農業環境部 環境保全グループ：2015年3月)。

5) その他

原則として1断面1ページであるが、データ量の多い断面については2ページとしました。通しNo5、6のは分類上は泥炭土に該当しないが含めて解説しました。